

景観資源の分類に基づく実態と課題に関する研究

- 東京都 23 区の景観資源の分類調査を通して -

A study on actual condition and issues based on Classification of landscape resources - Classification survey in Landscape resources designated by municipalities in Tokyo 23 Wards -

高橋 友樹* ・ 森田亜友美* ・ 室田昌子**

Yuuki Takahashi ・ Ayumi Morita ・ Masako Murota

The purpose of this paper is to clarify the features of landscape resources in Tokyo 23 wards. At first we divided the landscape resources into four types. Which are tangible-type and intangible-type and integral-type and view-type. The intangible-type includes festivals and activities, and etc. The integral-type is a combination of the tangible-type and intangible-type. As a result, Landscape resources provides mainly for tangible-type. There were concretely a lot of buildings, parks, and roads, and etc. In contrast, the intangible type was small proportion. It is necessary to catch the festival and the activity as Landscape resources.

Keywords: Landscape resources, Tangible-type, Intangible-type, Tokyo23wards

景観資源、有形型、無形型、東京都 23 区、

第 1 章 研究背景と目的

昨今、経済効率優先の地域づくりから、地域個性の直しや、郷土意識、愛着心を重視した地域づくりへと、大きな転換が進んでおり、各地域で進められている景観まちづくりもその一つの流れに位置づけられる。平成 16 年の景観法施行以降、地域の人々にとって大切な、地域らしい景観を守る活動が一層進んでいる。地域の景観資源を定めて保全活用するという動きも各地で活発化しつつある。地域資源を守るという観点からすれば、景観資源もハード面だけでなく、祭や日常など地域にある幅広いものを景観として捉える必要があると考えた。

近年、景観保全制度に関する研究としては景観条例や景観計画、高さ規制などの各研究がなされているが、

景観資源の保全に焦点をあてたものは少ない。本研究では、景観資源の指定・保全制度に着眼し、資源の分類調査を通し分析し、指定された景観資源の特徴や課題を明らかにすることを目的とする。

第 2 章 調査対象の概要と選定理由

2-1. 対象地区の概要と選定理由

本研究では、東京都 23 区の中で区独自で景観条例と景観計画や景観に関するガイドラインなどを策定し、その上で景観資源を指定している 8 区を調査対象とする。対象は、表-1 の 8 区であり、各区役所にインタビューを行い景観資源のデータを収集し、研究対象資料とした。

表-1: 各区における景観資源一覧表

2-2. 対象地区における景観資源の概要

区名	景観資源名	景観資源のコンセプト	位置づけられている景観要素 (「-」は該当無しか不明確)		景観資源の紹介方法			資源数
			有形	無形	写真の有無	説明文の有無	地区別紹介	
新宿区	新宿区景観まちづくりガイドブック	様々な地形で育まれた歴史や伝統に加え、そこに住む人々の営みが築き上げるもの	○	○	○	一部	10地区	520
文京区	文京区都市景観賞	普段なにげなく歩いていて、いいなと思う場所や活動	○	○	○	○	×	25
千代田区	千代田区景観まちづくり重要物件	区民の皆様に親しまれ、区内に残る歴史的な価値のある建築物等	○	-	○	×	9地区	64
江東区	江東区まちなみ景観賞	まちをひきたてる魅力ある建物やその周辺、まちなみ、地域活動など	○	○	×	×	×	32
	江東区都市景観重要建築物	景観づくりに関する重要な価値のある建築物や工作物	○	-	○	○	×	4
台東区	台東区思い出の景観30選	心に残る思い出の景観	-	-	○	×	×	30
	台東区地域景観資源リスト	台東区の景観の特徴をかたちづけているもの	-	-	×	×	5地区	450
北区	北区景観百選	区民の皆さんが愛着をもち、大切にしている景観	-	-	○	○	×	100
	北区景観賞	良好な都市景観づくりに寄与する建築物等	○	-	○	○	×	7
豊島区	豊島区アメニティ資源リスト	うるおいある緑や街並みなどの物質的要素、寺社の祭り、野外彫刻展、コミュニケーション活動など住み心地の良さやにぎわいなどの要素	○	○	×	×	3地区	183
	豊島区美しい街並みづくり賞	美しい街並み形成に寄与している、団体、建物、工作物、花やみどりなど	○	○	○	×	×	12
	豊島区美しい街並みフォト賞	美しい街並み、魅力ある街並み発見	-	-	○	×	×	10
世田谷区	世田谷区地域景観資産	地域で大切にしたい風景	-	-	○	○	6地区	66
	せたがや百景	世田谷に住む人々にとって大切な風景、好ましい風景	-	-	一部	×	×	100
選定された景観資源の合計数								1,603

* 非会員 東京都市大学環境情報学部環境情報学科 (Tokyo City University)

** 正会員 東京都市大学環境情報学部環境情報学科 (Tokyo City University)

研究対象地区の景観資源の数や名称、コンセプトをまとめたものが表-1である。また、本研究では、自然物や人工物を含めて形として存在しているものを有形とし、人の動きや賑わいなど、定まった形ではないが景観として成すものを無形として定義する。

2-3. 景観資源とは

景観資源とは、その地域における文化や歴史、自然、生活様式など地域独自の風情を表す景観であり、景観形成に良好な影響を与えているものである。たとえば、歴史的価値のある建造物、伝統や活気ある祭りの風景、景観を保全するための活動、地域のランドマークとなる建築物、住民の憩いの場である公園など、様々なタイプのものがある。

第3章 研究方法

3-1. 分類方法

まず、対象の景観資源を、有形型・無形型・有形と無形の一体型、眺望型の4タイプに分けた。そこから、一般的な分類基準を参考に有形を9項目、無形4項目、一体型3項目にわけ、さらにそれぞれの項目を有形107項目、無形9項目、一体型11項目、眺望17項目の計146項目に分類した。

ここでの一体型とは、有形と無形が組み合わさって景観としての価値を生むものとし、眺望型は、特定の場所から眺めることで価値ある景観として捉えられるものとし、詳細は表-2に掲載する。

3-2. 分類項目の詳細

3-1. に記した146の各分類項目の詳細をまとめたものが表-2である。

3-3. 分類手順

景観資源を分類する際は、景観資源の「名称」、掲載されている「写真」、資源の「説明文」に着目し、その資源が何を指しているかを分析し3-2. の分類項目に当てはめ分類を行った。(写真や説明文の有無については表-1参照)

また、掲載されている情報が少ないものについてはインターネットでオンライン調査を行い、詳細を把握し分類した。

3-4. 景観資源の具体例

今回の研究対象の資源の具体例としては、世田谷区の「下北沢阿波踊り」、台東区の「浅草寺」、豊島区の「池

袋東口駅前周辺」、新宿区の「新宿通りのまちなみ」、千代田区の「上智大学1号館」、江東区の「亀戸2丁目団地植栽管理活動」、北区「王子神社の熊手市」、文京区「壱岐坂の巨大壁画(東洋学園大学)」などがある。

表-2: 分類項目の詳細一覧

項目の分類(数)	小分類
緑(8)	樹木・森、植込み、畑、谷・崖、山、野原、花、屋上緑化・壁面緑化・蔭
水(6)	河川・水路、河川敷・土手、海、池、井戸、湧き水
建築物(22)	ビル(オフィス、商業、複合)、住宅(集合、戸建て)、神社、寺、宗教施設、歴史的建造物、史跡・名所・塚(歴史的建造物以外)、工場、店舗、事務所、役所、医療福祉施設、教育施設、スポーツ施設、文化施設、駅、橋、タワー・塔、トイレ
ストリート ファニチャー(6)	看板、ゲート・鳥居、噴水、像・モニュメント、標識・サイン、煙突
道路(14)	大通り※3、路地・狭い道※4、坂道、街路樹・並木・植樹帯(桜並木以外)、桜並木、鉄道の見える空間、交通施設(バスなど)、線形、行き止まり、交差点、階段・斜面、窪地、敷地・区画割り、空き地・道路建設予定地
有 形 型 オープン スペース(4)	公園・緑地・遊び場・庭園、緑道・プロムナード・歩行空間、ポケットパーク、駅前・ロータリー
外構(6)	生垣、花壇・植木、門・塀・石垣・壁、屋根・藁、庭
街並み(3)	街並み※5、スカイライン、夜景
有形+有形型(38) ※1	街並み+(緑、水、外構) 建築物+(建築物、緑、水、SF※6、道路、OS※7) 建築物+(外構、周辺空間※8) 緑+(緑、水、SF、道路、OS、外構、周辺空間) 水+(水、SF、道路、OS、外構、周辺空間) SF+(SF、道路、OS、外構、周辺空間) 道路+(道路、OS、外構、周辺空間) OS+(OS、外構、周辺空間) 外構+(外構、周辺空間)
無 形 型 伝統(3)	お祭り、市、伝統行事
習慣(2)	活動※9、生活行為※10
賑わい(3)	イベント、道路、公園
景観保全活動(1)	景観保全活動※11
活気ある空間(3)	商店街、横丁、公園
一体型 祭やイベント を行う場所(7)	寺社の祭行事、水辺の祭、水辺のイベント、道路の祭行事、道路のイベント、公園の祭行事、大学のイベント
祭が行われる 場所の活気(2)	寺社の祭の活気 道路の祭の活気
眺望 型 視点→対象(17) ※2	緑→街並み、水→緑、水→街並み、建築物→緑、建築物→水、建築物→建築物、建築物→道路、建築物→街並み、道路→緑、道路→建築物、道路→道路、道路→街並み、OS→緑、OS→水、OS→街並み、街並み→緑、近景+遠景
その他	

注

- ※1 有形+有形型：有形型の項目が2つ含まれるもの。
- ※2 視点→対象：どの視点からどんな対象物を眺めているかの項目
- ※3 大通り：2車線以上の道路
- ※4 路地・狭い道：1車線以下の幅の道路
- ※5 街並み：建築物や道路などを含む街一体を捉えたもの
- ※6 SF：ストリートファニチャーの略。路上や街中にあるもの。
- ※7 OS：オープンスペースの略。住民に開かれた空間を対象としたもの。
- ※8 周辺空間：対象の景観一体をまとめて一つの景観として捉えているもの
- ※9 活動：清掃や緑化など、個人や地域で行っている習慣活動であり、団体を設けて行う景観保全活動とは区別する。
- ※10 生活行為：受け継がれている日常的な生活習慣
- ※11 景観保全活動：団体による景観保全を目的とした活動

第4章 研究結果

表-3: 有形型、無形型の分類結果

分類調査の結果をまとめたものが表-3から表-5 である。
 各区の特徴は以下の通りである。

区名	総数	有形型										有形型合計	無形型										無形型合計	他	
		緑	水	建築物	S F	道路	O S	外溝	街並み	有形+有形型	伝統				習慣			賑わい			景観保全活動				
											お祭り		市	伝統行事	合計	活動	生活行為	合計	イベント	道路		公園			合計
新宿	520	25	4	101	9	113	63	33	36	74	458	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	11	0	11	0
文京	25	0	1	4	0	3	0	1	1	5	15	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	5	8	0
千代田	64	0	0	62	0	0	0	0	0	2	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
江東	36	0	0	12	0	1	5	1	0	13	32	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	3	0
台東	480	30	5	147	5	100	84	5	22	16	414	0	2	8	10	0	0	0	0	0	0	0	10	0	
北	107	2	1	39	3	18	23	0	0	11	97	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
豊島	205	9	1	67	9	39	13	3	11	36	188	0	0	1	1	2	0	2	0	0	0	0	0	3	2
世田谷	166	13	5	28	0	18	20	3	10	48	145	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1603	79	17	460	26	292	208	46	80	205	1,413	0	2	10	12	6	0	6	0	11	0	11	7	36	2

表-4: 一体型の分類結果

区名	一体型													合計
	活気ある空間			祭やイベントを行う場所							祭が行われる場所の活気			
	商店街	横丁	公園	寺社の祭行事	水辺の祭行事	水辺のイベント	道路の祭行事	道路のイベント	公園の祭行事	大学のイベント	寺社の祭の活気	道路の祭の活気		
新宿	6	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
文京	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千代田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
江東	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
台東	6	3	0	30	1	2	3	2	4	0	0	0	0	51
北	3	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
豊島	5	1	0	3	0	0	0	0	0	1	2	0	0	12
世田谷	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0	4	6	16	
合計	23	16	1	38	2	2	4	2	5	1	6	6	106	

表-5: 眺望型の分類結果

区名	視点一対象													近景+遠景	合計	他	総数		
	緑↓街	水↓緑	水↓街	建↓緑	建↓水	建↓建	建↓道	道↓街	道↓緑	道↓建	道↓道	道↓街	O S ↓緑					O S ↓水	O S ↓街
新宿	1	1	1	1	1	2	0	1	1	2	2	17	0	0	1	1	33	0	520
文京	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	25
千代田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
江東	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
台東	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	5	0	480
北	0	0	0	0	0.4	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	1.0	0.0	107
豊島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	205
世田谷	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	166
合計	1	2	1	2	6	2	1	3	1	2	2	17	1	1	1	1	46	2	1,603

注 ※街: 街並み ※建: 建築物 ※道: 道路

4-1. 有形型の特徴

有形型は全体の 88.1%もあつた。その割合は、建築物の 28.7%が最も多く、続いて道路が 18.2%、オープンスペースが 13.0%、有形+有形という有形型とその周辺を一体的に定めるものが 12.8%順である。一方、自然要素の景観資源は、緑が 4.9%、水が 1.1%と少ない。また、外構は 2.9%、

ストリートファニチャーも 1.6%と低く、空間的な規模が大きいものの方が指定されていることが推察される。

建築物は最も多いものの、景観資源のコンセプトで建築物や工作物を明示している区があるにも関わらず、全体としては、ずば抜けて多いともいえない。道路やオープンスペース、有形+有形など、人々の活動の拠点となりやすい空間を資源として捉える傾向が

うかがえる。

各区分では、千代田区は有形型100%を占めており、建築物だけでも96.9%と高い数値を示した。文京区は、指定数が25と最も少なく、有形は60.0%と最も低く、内訳は有形+有形型が20.0%、建築物が16.0%、道路が12.0%である。新宿区は、指定数が520と最も多く、道路が21.7%、街並みが6.9%、外構が6.3%と他の区と比べ高かった。北区は建築物が36.4%、オープンスペースが21.5%と高い。江東区は、指定数が36と少なく、有形+有形型が36.1%と多く、建築物も33.3%とやや高い傾向がある。世田谷区は他区に比べ、建築物や道路は低く、緑、街並み、有形+有形などの割合が高く、比較的広いエリアを指定している傾向が見られる。

4-2. 無形型の特徴

無形型の割合は全体の2.2%しかなく、大変少ない。景観資源のコンセプトで、活動や営み、団体、賑わいなどの無形的な要素を明示している区は、新宿、文教、江東、豊島の4区あった。新宿区は、道路の賑わい11件2.1%を指定し、文京区では景観保全活動が5件20.0%、習慣活動が3件12%あるが、江東区では景観保全活動が2件5.6%で、習慣活動が1件2.8%であり、豊島区では習慣活動が2件1.0%と少ない。

一方、コンセプトで無形要素を明示していない区については、台東区は伝統行事8件1.7%、市2件0.4%など伝統に着眼したもの、北区で伝統行事1件がある程度で、全体に大変少ないと言える。

4-3. 一体型の特徴

一体型の割合は全体の6.6%しかなく、これも少ないと言える。その中で、台東区の51件10.6%、世田谷区の16件9.6%、北区の8件7.5%、豊島区の12件5.9%、新宿区の18件3.5%などの指定がある。新宿区は、商店街や横丁の指定が多く、台東区や北区は祭やイベントを行う場所が多く、その中でも寺社の祭が多く指定されていた。豊島区と世田谷区は祭が行われる場所の活気が多く指定されていた。そのため、人々の生活に身近な寺社の祭行事などが指定され易い事が分かった。

4-4. 眺望型の特徴

眺望型の割合は2.9%と少なく、割合が高かった区は新宿区のみであった。新宿区は、様々な視点から対象物を捉えているが、その中でも道路→街並みや、道路→道路が多く、道路から対象物を捉えている傾向にある。また有形型においても自然の景観要素が高かった世田谷区は、眺望型でも同様に様々な場所から自然を眺める割合が高

かった。

4-5. 各区の特徴

新宿区は有形型、無形型、一体型、眺望型全ての項目において道路の指定が多く、その着眼点は他の区に見られない専門的な視点が多かった。千代田区は建築物が多く、古くから使われているオフィスや老舗などが多く指定されていた。文京区と江東区は、指定数が少なく、コンセプトに無形的要素を明示していることもあり、人々の活動を資源として捉えるものが割合としてはやや高かった。台東区と北区は、全体としては建物とオープンスペースの指定が多いが、人々の生活に身近な祭行事や、寺社や道路で行われている伝統行事も景観資源として指定していた。豊島区は有形型が多く、特に建築物や有形+有形等が多く、世田谷区は、比較的広いエリアを指定する傾向があるが、豊島区と世田谷区は、どちらも活気ある空間という要素を景観資源に加えていた。

4-6. 景観コンセプトから見た考察

千代田区のようにコンセプト内で建築物といった有形要素を述べている区は有形型の中でも特に建築物に特化している傾向が強い。また江東区や豊島区のように街並みをコンセプトとしている区は、街並みだけでなく、有形+有形型など景観資源をエリアで捉える傾向にあった。活動や賑わいなど無形要素を明示していた区（文京区、江東区、豊島区、新宿区）のうち、新宿区や文京区は、ある程度の指定件数があったが、いずれも少なく、無形は、景観資源としては認識されていない。台東区は、コンセプトで具体的な指定はしていないが、一体型が10.6%みられた。

第5章 考察・まとめ

今回の分類結果から、景観資源としては、建築物、道路、公園など有形のものが多く、一方、無形要素を含んだ景観（無形型、一体型）は全体の8.8%しかなく、まだまだ景観としての認識が低いことが明らかになった。しかし、文京区における景観保全活動や、新宿区の道路の賑わい、台東区の伝統行事のように無形要素を景観として捉えている例も確認できた。まずは、景観資源のなかに無形型を多く指定し、公開することで、祭や日常など地域にある幅広いものを景観として捉え、それらの保全につながる可能性があるといえる。

【参考文献】1) 日本建築学会、(2009年)「生活景—身近な景観価値の発見とまちづくり」(学芸出版社)